

平成21年度胆振管内観光入込客数の状況について

北海道胆振総合振興局

平成22年6月

1. 概要

胆振管内の平成21年度の観光入込客数は15,146.5千人となり、前年度(15,749.4千人)に対し96.2%と602.9千人減少しました。(上期:前年度比92.1%、783.3千人の減少 下期:同103.1%、180.4千人の増加)

上期の減少の要因としては、新型インフルエンザ、平成20年度から続く世界経済の落ち込みなど、消費マインドの低下や旅行需要が大きく減少したことが影響していると考えられます。一方、下期の増加の要因としては、高速道路ETC割引による日帰り客の増加や、中国人富裕層への訪日観光ビザの解禁による中国人観光客の増加などが大きく影響したと考えられます。

しかし、上期の入込客数の減少による影響が大きく、下期の入込客数増加を打ち消したため、平成21年度全体として見ると、観光入込客数は前年度対比で約3.8%減少しています。

※ 上期：平成21年4月～9月、下期：平成21年10月～平成22年3月

【参考：平成21年度胆振管内観光入込客数内訳】

区分		平成21年度観光入込客数(千人)		対前年度比(%)	前年度からの増減数(千人)	備考
		入込客数(千人)	構成比(%)			
道内・道外別	道外	4,843.6	32.0	93.0	363.3減	*対前年度比で見ると、道内客よりも道外客の減少幅が大きい。
	道内	10,302.9	68.0	97.7	239.6減	
日帰・宿泊別	日帰	12,444.8	82.2	97.0	381.0減	*対前年度比で見ると、日帰り客よりも宿泊客の減少幅が大きい。
	宿泊	2,701.7	17.8	92.4	221.9減	
総計		15,146.5	100.0	96.2	602.9減	
宿泊客数延べ数		2,897.2		91.8	260.5減	

2. 市町別状況

(1) 室蘭市 (入込数：1,106.0千人 前年度比：98.3% 対前年度増減数：▲18.6千人)

上期：5・9月の大型連休は好調でしたが、6月や8月は悪天候が影響して入込客数が減少しました。特に主要なイベントのある8月は大きな影響を受けました。(前年度比：95.8%、対前年度増減数：▲37.9千人)

下期：10・11月は好天と高速道路ETC割引の効果で景勝地の入込客数が増加しました。一方、下期の後半は悪天候の影響で、入込客数は屋内・屋外施設ともに減少となりました。(前年比：108.4%、対前年度増減数：19.3千人)

(2) 苫小牧市 (入込数：1,517.9千人 前年度比：108.4% 対前年度増減数：117.5千人)

上期：平均して昨年と大きな変化はなく、ゴルフ場への観光客は減少しましたが、文化施設や自然施設の利用者は増加しました。(前年比：98.6%、対前年度増減数：▲12.9千人)

下期：10月の道の駅の開業に伴い、下期の観光客は昨年度に比べて約3割増加しました。(前年比：127.2%、対前年度増減数：130.4千人)

しかしながら、宿泊客数は昨年度と比べ大きな差は見られませんでした。

(3) 登別市 (入込数：3,023.9千人 前年度比：98.8% 対前年度増減数：▲37.8千人)

上期：平成20年度からの世界経済状況の影響により国内外の観光客が減少しました。特に韓国、台湾、香港からの観光客の減少が大きな要因となっています。(前年比：91.9%、対前年度増減数：▲141.7千人)

下期：国内からの観光客の増加は、宣伝誘致活動や湯めぐり手形の販売などの効果が経済環境の回復と重なったことによるものと考えられます。また、外国人観光客については経済環境の回復や中国人富裕層の個人ビザが主な増加要因と考えられます。(前年比：108.0%、対前年度増減数：

103.9千人)

(4) 伊達市 (入込数：2,156.1千人 前年度比：104.0% 対前年度増減数：83.6千人)

上期：平成20年度は洞爺湖サミット関連の警備関係者の長期滞在によって通常よりも客数が増加したため、平成21年度はその分の客数の減少が大きく影響しました。(前年比：98.6%、対前年度増減数：▲16.3千人)

下期：高速道路ETC割引などによる観光客の増加が要因と推測されます。(前年比：110.7%、対前年度増減数：99.9千人)

(5) 豊浦町 (入込数：373.1千人 前年度比：91.6% 対前年度増減数：▲34.0千人)

上期：各施設の入込客数が減少しました。特に、「天然豊浦温泉しおさい」、「森林公園」、「キャンプ場」の入込客数が減少しました。(前年比：90.7%、対前年度増減数：▲25.8千人)

下期：各施設の入込客数が減少しました。特に、「道の駅とようら」では改修工事の影響で、入込客数が減少しました。(前年比：93.7%、対前年度増減数：▲8.2千人)

- (6) 洞爺湖町 (入込数：2,763.5千人 前年度比：88.0% 対前年度増減数：▲378.6千人)
上期：平成20年度の秋から続く世界的な不況及び新型インフルエンザの影響により入込客数が減少しました。(前年比：84.6%、対前年度増減数：▲324.4千人)
下期：長く続く不況の影響から大幅に減少しています。また、その影響から規模縮小や営業廃止に追い込まれる施設も出てきています。(前年比：94.8%、対前年度増減数：▲54.2千人)
- (7) 壮瞥町 (入込数：1581.1千人 前年度比：89.4% 対前年度増減数：▲187.5千人)
上期：長雨による入込客数の減少が顕著で、特に昭和新山地区の客数の減少が大きかったです。キャンプ場、道の駅そうべつ情報館の入込客数は堅調な伸びがあります。サミット効果は特にありませんでした。(前年比：87.8%、対前年度増減数：▲136.9千人)
下期：上期に引き続き昭和新山地区の入込客数が減少しており、町内日帰り温泉利用者の減少が続いています。道の駅そうべつ情報館の入込客数も落ち着きつつあります。(前年比：92.1%、対前年度増減数：▲50.6千人)
- (8) 白老町 (入込数：1931.9千人 前年度比：92.9% 対前年度増減数：▲147.5千人)
上期：経済不況や新型インフルエンザの影響により国外・道外からの観光客が極端に減少しました。また大型宿泊施設の休業や天候不良なども影響したとみられます。しかし、白老町戦略的観光推進事業や、旅行会社等への営業活動が厳しい状況の中でも減少幅を小さくしています。(前年比：93.5%、対前年度増減数：▲77.2千人)
下期：上期同様長引く経済不況や大型宿泊施設の休業が観光客減少の大きな要因となっています。しかし、近年のアウトドアスポーツに対する人気、白老牛、卵の知名度アップ等を背景に、一部地域では観光客が微増しています。(前年比：92.1%、対前年度増減数：▲70.3千人)
- (9) 安平町 (入込数：303.9千人 前年度比：89.8% 対前年度増減数：▲34.4千人)
上期：天候不良や景気後退等の影響で、ゴルフ場を中心に入込客数が減少しました。(前年比：87.2%、対前年度増減数：▲28.9千人)
下期：全体的に入込客数がわずかに減少しています。(前年比：95.1%、対前年度増減数：▲5.5千人)
- (10) 厚真町 (入込数：153.8千人 前年度比：131.6% 対前年度増減数：36.9千人)
上期：平成21年度より地域活性化プロジェクトチームを設立し、浜厚真サーフィン会場のアンケートを実施して推計したところ、6倍の入込客数となっていました。「田舎まつり」は周辺市町村が悪天候のため、町外者の入込客数が大幅に減少しました。(前年比：129.9%、対前年度増減数：26.1千人)
下期：上期同様、浜厚真サーフィン会場の入込客数の推計値の見直しによって大きく増加しました。しかし、2月開催のイベントは寒波の影響で来場客が少なかったため、2月の入込客数は減少しました。(前年比：136.4%、対前年度増減数：10.8千人)
- (11) むかわ町 (入込数：235.3千人 前年度比：98.9% 対前年度増減数：▲2.5千人)
上期：各施設の入館者が減少しました。(前年比：95.3%、対前年度増減数：▲7.4千人)
下期：各施設の入館者が増加しました。(前年比：106.1%、対前年度増減数：4.9千人)